



奈義伍協牧場を見学するおかやまコープ組合員

**「おかやま育ち」商品**

生協ヨーグルト 岡山県産乳を100%使用。生きて腸まで届くL55 乳酸菌がおなかの健康に役立つ

牛窓ちりめん 4月より新発売。牛窓で揚げたイワシの稚魚を天日干しでソフトに仕上げた

「おかやま育ち」商品

甘み、ぷりぷり感が好評で発売以来、今も人気の定番商品だ。

### こだわりの41品目

同コープが商品開発の中で大切にしたのは、「地産地消の推進だけではなく、ます一番おいしいこと、岡山県産としての良さがあり自慢できること、しかも誰でも利用できるリーズナブルな価格が実現できること」。そのこだわりが組合員に支持され、その後はヨーグルトや麺類など「おかやま育ち」の品目を拡大。2004年から卵、牛乳、牛肉、豚肉などの畜産物や水産物、米、農産品の直販商品、開発商品も「おかやま育ち」に加わり、現在は41品目がラインアップしている。

「おかやま育ち」のように、県内の農水畜産物を積極的に地元で消費して地産地消を推進することは、地域の農業振興に貢献し、食料自給率の向上や環境保全につながる。

特に日本の食料自給率は年々低下

おかやまコープ。  
くらしつくる  
Vol.12

安全・安心でおいしい食品を求める消費者の声に応え、おかやまコープが開発・普及に努めたオリジナルブランド「おかやま育ち」が今年、スタートから15周年を迎えた。「おかやま育ち」は、原料に岡山県産の農水畜産物を使って開発した加工商品と県内直販商品。リーズナブルな価格も支持を得て、今では41品目がラインアップしている。同コープでは、地産地消の推進とともに、食料自給率の向上や循環型農業の応援につながる取り組みとして、「おかやま育ち」商品の利用を呼び掛けている。



▲このマークが目印です

# 愛されて15周年 「おかやま育ち」で 地産地消

## 岡山産の農水畜産品を活用

おかやまコープの「おかやま育ち」商品は、地元の食材を使った加工品をつくり、地産地消に貢献しようとする、15年前から取り組みがスタートした。まず同コープが注目したのはお米。

「お米は岡山県の農業の重要な位置を占めており、田は循環型農業や耕作連携の要にもなっている。そこで朝日米を100%使った冷凍食品「エビピラフ」を第1号として開発した」(同)

同コープによる「食」と「農」をつなぐ地産地消の取り組みに、大きな期待と関心が寄せられている。

しかし、現在は40% (カロリーベース) と食料の約6割を輸入に頼っている。しかし将来、中国、インドなど人口大国の経済発展で世界の食料需要が増え、しかも環境汚染による水不足や天候不順で穀物が不足して、国際価格が上昇することが予測されている。食料自給率の向上は待ったなしの課題だけに、同コープによる「食」と「農」をつなぐ地産地消の取り組みに、大きな期待と関心が寄せられている。

生産者と組合員が交流



▲このマークが目印です

「おかやま育ち」第1号商品の冷凍飯「エビピラフ」が誕生したのは1998年。当時商品開発に携わった職員は、「お米離れが進む状況の中、若い世代にアピールできる商品として考めたのが、岡山県産の朝日米を100%使った「エビピラフ」だった」と振り返る。朝日米は岡山県で戦前から栽培され、「こしひかり」「あきたこまち」などのルーツとなつた品種で、現在では岡山県のみで本格的に作られており、脚光を浴びている。付加価値を高めて生産量を拡大し、食料自給率の向上や地域活性化を目指すもので、国も施策を推進している。同コープによる「おかやま育ち」のいちどを応援していきたい」との声が挙がるなど、信頼と理解が深まっている。

「おかやま育ち」第一号商品の冷凍飯「エビピラフ」が誕生したのは1998年。当時商品開発に携わった職員は、「お米離れが進む状況の中、若い世代にアピールできる商品として考めたのが、岡山県産の朝日米を100%使った「エビピラフ」だった」と振り返る。朝日米は岡山県で戦前から栽培され、「こしひかり」「あきたこまち」の野菜や肉もできるだけ国産にこだわりを実際見て学んだ組合員からは、「岡山の直販商品や加工品をつくり利用して、生産者やメーカーの方たちを応援していく」との声が挙がるなど、信頼と理解が深まっている。

近年、国内各地で農産物の生産(1)では岡山県のみで本格的に作られており、脚光を浴びている。付加価値を高めて生産量を拡大し、食料自給率の向上や地域活性化を目指すもので、国も施策を推進している。同コープによる「おかやま育ち」のいちどを応援していきたい」との声が挙がるなど、信頼と理解が深まっている。

「おかやま育ち」第一号商品の冷凍飯「エビピラフ」が誕生したのは1998年。当時商品開発に携わった職員は、「お米離れが進む状況の中、若い世代にアピールできる商品として考めたのが、岡山県産の朝日米を100%使った「エビピラフ」だった」と振り返る。朝日米は岡山県で戦前から栽培され、「こしひかり」「あきたこまち」の野菜や肉もできるだけ国産にこだわりを実際見て学んだ組合員からは、「岡山の直販商品や加工品をつくり利用して、生産者やメーカーの方たちを応援していく」との声が挙がるなど、信頼と理解が深まっている。

「おかやま育ち」第一号商品の冷凍飯「エビピラフ」が誕生したのは1998年。当時商品開発に携わった職員は、「お米離れが進む状況の中、若い世代にアピールできる商品として考めたのが、岡山県産の朝日米を100%使った「エビピラフ」だった」と振り返る。朝日米は岡山県で戦前から栽培され、「こしひかり」「あきたこまち」の野菜や肉もできるだけ国産にこだわりを実際見て学んだ組合員からは、「岡山の直販商品や加工品をつくり利用して、生産者やメーカーの方たちを応援していく」との声が挙がるなど、信頼と理解が深まっている。

## 食料自給率の向上に貢献

飼料用米 20% 配合

Fコーン(遺伝子組み換えをしていない、収穫後無農薬のトウモロコシを中心)魚粉や米ぬかを配合。2010年秋から岡山県産の飼料用米の配合を始めた。商品名も「コープ直販こめたまご」から、組合員が選んだ「コープ直販こめたまご」に一新して販売している。

### コープ直販こめたまご



### 「おかやま育ち」第1号 エビピラフ



### 6次産業化の先駆的な役割

岡山商科大学 経営学部教授 岸田 芳朗氏

6次産業化は農業と農村の活性化をねらいとしています。この考え方は、18年前に研究者によって提唱されたものです。表現方法こそ異なりますが、15周年を迎える「おかやま育ち」は、まさに6次産業化の先駆的な役割を果たしてきたといえます。今や国際的に食料問題は一層厳しい局面を迎えようとしています。だからこそ、「おかやま育ち」に関する事業の継続と拡大は、コープの大きな原動力になるのです。

## 朝日米の特徴生かし開発

企画・制作/山陽新聞社広告本部

# おかやま育ち 15周年キャンペーン実施中!

▲このマークが目印です!  
キャンペーン期間 2012年 6月1回~7月4回 店舗 6/3日~7/28土

応募締切: 8/3(金) 宅配抽選: 8/3(金)

※組合おかやま育ちご購入時のマークを1点分集めて応募チラシに必要事項をご記入の上ご応募ください。宅配(eats)の場合: 業務用、おかやま育ち商品を購入するとお届けの組合員さんへの連絡欄に印字される「おかやま育ちマーク」を切り取り、応募チラシにあたり15マージンを貼ってご応募ください。店舗での購入の場合: 業務用、おかやま育ち商品を購入するとレシートの商品名の左に「★マーク」が印字されます。この★マークがあるレシートを、店舗に置かれた応募チラシに貼ってご応募ください。※詳しくは店舗チラシをご覧ください。※おかやまコープ組合員ではない方は別途応募料金を支払ってください。

期間中、「おかやま育ち」商品をご利用の方に抽選で 素敵なプレゼント!!

1等 抽選でペア3名様 ユニバーサル・スタジオ・ジャパン 1泊2日

2等 抽選で20名様 コープおかやま牛バラエティセット

3等 抽選で30名様 岡山産果物セット

4等 抽選で1,000名様 お買い物券(500円)

宅配・店舗、両方でご利用いただけます!

※応募期間: 8:30~21:00(月曜日~金曜日) 8:30~18:00(土曜日)

※受付時間: 8:30~21:00(月曜日~金曜日) 8:30~18:00(土曜日)